

おわりに

プレゼンテーション教材の活用について

本冊子では、「学ぶ手応えを実感できる」をキーワードにして、観察や実験を中心とした事例を紹介した。しかし、最終的に生徒の知識や理解の定着に結びつかなければ、「分かった」、「身に付いた」という実感は得られない。

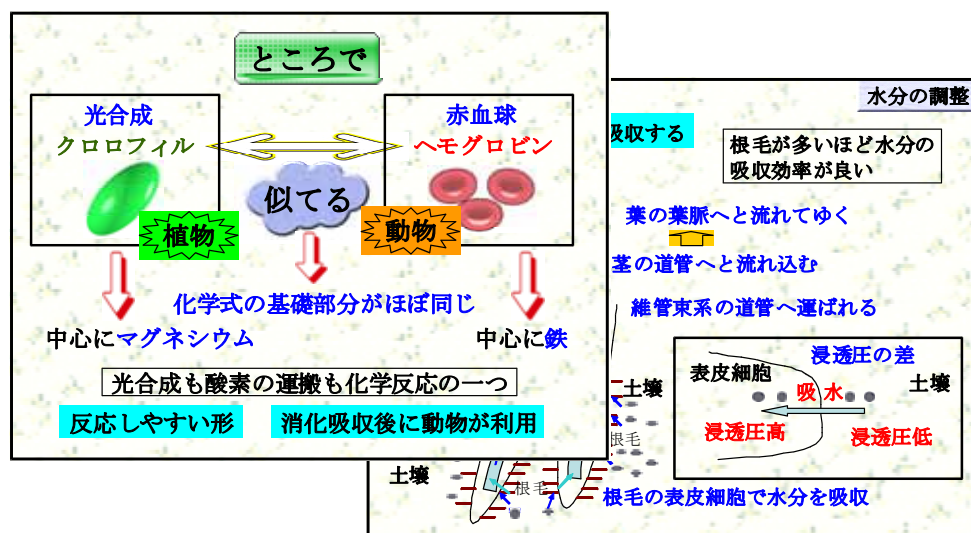
この課題を解決する一つの方法として、プレゼンテーション教材の工夫が挙げられる。これまでも多くの理科担当の先生方が、授業の導入やまとめ、観察、実験の説明や考察のための資料として用いている。授業のテンポを変えたり、発問や課題提示の効果を高めたり、アニメーションの効果を生かして模式図の理解を容易にしたりするなど、多様な活用法が考えられる。教師が説明に用いるだけでは、必ずしも生徒の理解につながるとは限らないが、生徒との対話を生かした授業を展開したり、生徒に操作させたりすることで、生徒が主体的にデジタル教材と向き合えるようになると期待される。

また、次年度から本格運用になる「県立学校間情報ネットワーク」によって、学校間の情報ネットワーク環境が強化される。このネットワーク環境では、「掲示板」や「電子会議室」の機能を用いて、デジタル教材を教員間で共有しやすくなる。

先生方一人一人のアイデアを、県内の多くの先生方と共有して、指導力アップに取り組むことを期待します。

(例) たとえば、県立学悠館高等学校では、通信制などの生徒ためのプレゼンテーション教材の開発整備に取り組んでいる。

このような教材の情報も、県立ネットワークの環境を生かすと学校間で共有できる。



高等学校における教科指導の充実
理 科 《 生物領域 》
学ぶ手応えを実感できる生物教材の工夫
〔植物・情報活用〕

発 行 平成20年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>